



さんすいずふすま
綴プロジェクト作品 重要文化財 山水図襖
海北友松 筆 寄贈先・原本所蔵：大本山 建仁寺

余白の技が、大切な客人をもてなす山水図。

この「山水図」は、戦国時代の絵師、海北友松が建仁寺方丈の再建時に描いた襖絵の一つ。六十台半ばにして迎えた京都の名刹という晴れ舞台。友松は技を尽くして、それぞれの部屋にふさわしい襖絵五十面を描く。その中でも、ひととき情感深いのがこの山水図である。檀那の間は、檀家衆など寺を訪れた客の控えの間。そこに描かれたのは、余白を広く使い、筆数少なく、墨の濃淡だけで表現された水辺の景色。人間は小さく、自然の一部でしかない。壮大な空間が広がる風景が、心を静めて待つ客人に穏やかなくつろぎを与えたであろう。

原本は天災などを避け、京都国立博物館に保存されています。綴プロジェクトは、二〇〇九年に高精細複製品を制作し建仁寺に寄贈しました。描かれた当時と同じく、襖として設えられたことで、風景の奥行きまで感じられます。山々が見え隠れする静謐な空間は、四百年前と同じく、今も寺を訪れる人をもてなしています。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。

海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品(38作品)は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報
綴プロジェクト作品「山水図襖」は建仁寺
で公開中です。

Canon